
K ~ another ~

ノノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

K \ another \

【コード】

N0412C

【作者名】

ノノ

【あらすじ】

一匹の黒猫と一人の絵描き家の悲しい物語です。某有名グループの歌詞をアレンジ（ほとんど歌詞）しました。聴いたことがある人は歌詞を思い出しながら読んでみて下さい。

週末の大通りを黒猫が歩く

ご自慢の鍵を首にぶら下げ黒猫が歩く

その容姿はお世辞にも綺麗とはいえない

だが黒猫は道路の真ん中で尻尾の先をピンと立て悠然と歩く
まさに威風堂々と

その姿から猫は忌み嫌われていた

闇に溶けるように路地裏に入る黒猫

その体目がけて石を投げる町人

孤独には慣れていた

むしろ望んでいた

誰かを思いやることなんて煩わしくて

そんな猫を抱き上げる若い絵描きもいた

絵描きは一言『こんばんは素敵なおチビさん、僕らは似ているね』

腕のなかを必死で引つ掻いた

『痛っ、待ってくれ黒猫君!』

『孤独』という名の逃げ道を必死で走る黒猫
生まれて初めての『優しさ』と『温もり』がまだ信じられなくて

どれだけ逃げたって変り者は付いてきた
黒猫は次第に心を開くようになった

それから猫は絵描きと2度目の冬を過ごす

絵描きは友達に名前をやった

白い幸

ホーリィナイト

彼のスケッチブックはほとんど黒ずくめ

黒猫も初めての友達にくつついて甘えたが ある日

『…はあ、今日も絵が売れなかった。君のせいじゃないさ…僕にとつての君は…最高傑作…だから…』

バサッ

倒れる名づけ親

駆け寄る黒猫

『ハハッ…まいったな、立つ力も出せないか…最後に頼みたいんだ…』

一通の手紙を取り出した

『走って…走ってこいつを届けてくれ。夢を見て飛び出した僕の帰りを待つ恋人へ…』

不吉な黒猫の絵など売れないがそれでもアンタは俺だけ描いた
それ故アンタは冷たくなつた

手紙は確かに 受け取つた

雪の降る山道を黒猫が走る

今は亡き親友との約束をその口にくわえて

すれ違う町人

『見ろよ！悪魔の使者だ！』

石を投げる子供

何度でも呼ぶがいいさ

消えない名前があるから

《ホーリイナイト》

聖なる夜と呼んでくれた

優しさも温もりも全て詰め込んで呼んでくれた

忌み嫌われた俺にも意味があるとするならば

この日の為に生まれてきたんだろ

どこまでも走るよ

彼は辿り着いた

親友の故郷に

恋人の家まであと数キロだ！

走った！

転んだ！

すでに満身創痍だ

起き上がる暇もなく襲いくる罵声と暴力

負けるか！俺は《ホーリイナイト》！

千切れそうな手足を

引きずりなお走った

見つけたこの家だ！

開く扉

ニヤオ

『…子猫？大変！ひどい傷…この手紙は

』

その後黒猫は、恋人の手当てにより命を繋ぐことができた

恋人は黒猫に《K》という名前を付け、家族のように可愛がられ、黒猫もその愛情を受け入れていた

しかし三年後、黒猫は姿を消した

音もなく

静かに

恋人は手紙を読み直す

何百回と読んだ手紙を
今日初めて見るように

愛する へ

やあ！元気にしてるかい？僕のほうは変わり無く充実した毎日を送っているよ。

君の家を出てから三年経ったね。

僕は夢を諦めなくて良かったと今も思っている。

君にとっては僕の夢なんて道端にある小石程度としか考えていなかっただろうが

僕にとってはその小石がダイヤモンド以上の輝きを放っていたんだ。

そのかわり、君に淋しい思いをさせたのは僕のせいだ。ごめん

代わりといっちゃ何だがそっちに黒猫を一匹送った。

目の前にいる奴が彼だ。

彼は僕の大親友だ。くれぐれも機嫌を損ねないように彼は氷の城のようにデリケートだ。

熱ければ氷の城は溶けてしまい、冷やせば堅く門を閉ざしてしまう

彼は僕に似ている。

彼を僕だと思って可愛がってくれ。

それでは僕は、描きかけの最高傑作に取り組むことにする。

この作品を手掛けたらまた手紙を出すよ。それまではまたお別れだ。

体に気を付けて

君を愛する者 K

恋人は外へ出て空を見上げる

雪が降り始めたようだ

吐く息が白くなり、頬を掠める

恋人が呟く

「次はどんな夢を見つけたのかな

」

T H E
E N D

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0412c/>

K ~ another ~

2010年10月28日03時50分発行